

## 「信仰に堅く立つ」第Ⅱテサロニケ2章13-17節

パウロはまず13節で、テサロニケ教会のクリスチャンたちに対して「神が御霊による聖別と、真理に対する信仰によって、あなたがたを初穂として救いに選ばれたからです。」と神に感謝しています。このことばから私たちの救いには、「神の恵み、神の選び」という要素と、それに対する「人間の信仰による応答」という二つの要素があることがわかります。イエスはかつて彼の許に救いを求めてやってきたニコデモという律法学者に対して「まことに、まことに、あなたに言います。人は水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」と語りました。またパウロは、第Ⅰコリント12章3節で「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です。』ということとはできません。」と語っています。イエスもパウロもこのように、私たちの救いにおける聖霊の働きの重要性について語っています。このように私たちは聖霊の働きなくしてイエスをキリストとして信じることはできないと言うのです。しかしその救いは自分の意志と全く関係のない神がかり的なものではありません。パウロは、実際に彼らの救いは一人一人の「真理に対する信仰」(13)によってもたらされたと言うのです。すなわち、私たちは神によって提供された救いを、自分の意志で、信仰をもって受け入れなければならないと言うのです。私たち人間にもなすべきことがあるのです。それは神が与えて下さる救いを、信仰をもって素直に受け入れることです。さらにパウロは14節で「そのために神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光にあずからせてくださいました。」とこの救いが神の主権と御力によって与えられたことを強調しています。パウロはここでテサロニケ教会のクリスチャンたちが神の召しを受け、主イエス・キリストの栄光を与えられていることを心から感謝し、彼らにそのことを知らせることによって、同時にこの恵みの事実を彼らに確認させているのです。

それでは、何故パウロはここで、テサロニケ教会のクリスチャンたちに対して、このように神による救いの選び、神の召しと栄光について語っているのでしょうか。

それは彼らテサロニケ教会のクリスチャンたちが、その信仰が揺らいでしまうような大きな二つの危険、戦いの中に置かれていたからです。一つは、今までも見てきましたように激しいユダヤ人たちによる迫害と苦難でありました。そしてもう一つは、間違った再臨の教えをもって教会の中をかき乱す異端者たちとの戦いでありました。この教会の外からの迫害と教会の中からの間違った教え、異端は、サタンがいつの時代もクリスチャンたちを神さまへの信仰から引き離すために用いて来た常套手段でありました。当時のテサロニケ教会のクリスチャンたちはまさにこのような戦いの中に置かれ、信仰が大きく揺り動かされていたのです。そんな彼らを信仰に堅く立たしめるものは一体なんなのでしょうか。それは神さまの揺るぎない愛と選びであります。私たちが救いの確かさを疑う時と言うのはどういう時でしょうか。それは神の愛が信じられなくなる時です。しかしそれと共に、自分の救いの確信を定かでない自分の行いや自分の心の状態に置いている時であります。私たちは日々変わりゆくもの、移り行くものに救いの根拠を置いていますと救いの確信がいつも揺らぐのであります。ですから、パウロはここで彼らを信仰に堅く立たしめるために、神の選び、神の召しを語っているのです。

パウロはこのようにキリスト者に与えられるキリストの栄光を示した上で15節で「ですから」と出発点に帰り「すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないで」、「堅く立って学んだ教えをしっかりと守りなさい。」と命じているのです。

このように私たちの救いへの招きと神の召しは神の主権と聖霊のみわざによるものでありますが、それは私たち人間が何もしなくてもよいということではありません。13-14 節では、救いにおける神の選びと召しという神の主権的な働きに重きが置かれていますが、15 節では私たちキリスト者が「堅く立って」「学んだ教えをしっかりと守りなさい」と私たちキリスト者のなすべき責任について語っているのです。このように教会はいつの時代にも健全な教えを堅く守り、またそれを次の世代に伝えていかなければならないのです。

私はここでパウロが、終わりの時代に現れる不法の者と彼が行う悪の欺きと惑わし、偽りに対して、「パウロたちから学んだ教え」をしっかりと守るようにと「教えを守る」ことを強調していることは特に注目に値することだと思ふのです。それは教会もクリスチャンもこの「聖書の教え」、つまり聖書の解釈において最も惑わされやすいからであります。そして聖書の間違った教え、間違った福音は人々を救いに導くどころか、この世において私たちを破壊的な人生に導き、ついには地獄へとおとしめるからであります。このようにサタンは間違った教えによって人々を騙し、惑わすことによって人々を救いから遠ざけているのです。キリスト教の異端というのは似て非なるものです。彼らは同じ聖書を土台にしていると主張し、同じキリスト教用語を使いながら全く別の意味、別の解釈に変えているのです。つまり彼らは聖書の教えを間違っ理解し、適用しているのです。それでは私たちはこのような偽物の間違った教えに惑わされないためにはどうしたらよいのでしょうか。それは言うまでもなく本物を良く知ることしかありません。**健全な聖書の教え、健全な福音の理解に堅く立つこと**なのです。何故なら、本物を良く知っている人はたとえ偽物が近づいてきてもそれが偽物であることに気が付くからです。それでは私たちが本物を知るためにはどうしたらよいのでしょうか。それは聖書そのものを正しく学ぶことです。皆さんも毎日聖書を読むことの大切さを教えられていると思いますが、毎日聖書を読んでいけば大丈夫かといったらそうとは言えません。何故なら、私たちは聖書を読んでも自分勝手に自分の都合の良いように聖書を解釈し、適用してしまうことが多いからであります。ですから正しく聖書を読み、学ぶためには聖書を正しく説き明かしている教会にしっかりとつながることが必要です。先に 2 章 3 節で学んだように、この世の終わりの時、キリストが再臨される時に「まず背教が起こる」ことを学びました。背教とはキリスト信仰を捨てる者、それを否定する者が現れるということです。それではそのような背教はどこから、どのようにして起こるのでしょうか。それは決して教会の外からではないと思ひます。それは教会の中からではないかと思ひます。だから私たちは牧師も信徒も騙されないように、福音の真理に、聖書の健全な教えにしっかりと立つことが必要なのです。

さてパウロはここで、彼らに「兄弟たち。堅く立ち、学んだ教えをしっかりと守りなさい。」と勧めましたが、その後、16-17 節で神に祈りを捧げています。それは自分の力だけではそれを実行することが不可能であるため、パウロは最後に神の助けを祈り求めているのです。それは私たちキリスト者がいくら学んだ教えを、聖書の言葉をしっかりと守ったとしても、私たちの信仰を真に慰め、強めて下さるのは、神さま以外におられないからです。それゆえパウロはここで、イエス・キリストと父なる神ご自身が「あなたがたの心を慰め、強めて、あらゆる良いわざとことばに進ませてくださいますように。」と祈っています。イエスはこの世の終わりの時代、多くの人々の愛が冷たくなり、思いやりが失われ、不法がはびこると預言しています。そのような終末の時代に生きる中で、このパウロの祈りは、テサロニケのクリスチャンだけでなく、今日の私たちクリスチャンにとってまさに必要な祈りと言えます。今朝パウロと同じように、私たちもこのコロナ禍の中で「あらゆる良いわざとことばに進ませてくださいますように」と神に祈りたいものです。